

▶ 代議員 No.2 大本 敏明（倉吉駅連区）

- 分会で職場集会を開催し、組合員の意見を聞いてきた。遠隔MV導入になった場合でも、現行の対面販売とマルス2台端末での販売体制を維持していただきたい。また、非対面販売に対する地本としての見解を示されたい。
- スーパーはくと13号の延長運転について、利用促進協議会からは要望が出ている。会社との交渉を要望する。



▶ 代議員 No.3 安本 昭二（鳥取列車）

- 長年の要望事項であった、浜坂乗泊の女性用トイレの設置について着工が決まり地本にお礼申し上げる。引き続き、浜坂駅に女性用乗泊（休憩室等）の設備を設置するよう会社に対して要求していただきたい。
- 若桜鉄道のWT車両は有人、無人の選択スイッチが無いため、次期ダイヤ改正からはツーマン運転とされたい。
- 異常時における智頭駅営業時間外での対応は乗務員のみで行っている。支援体制を検討していただきたい。
- 11月18日に、鳥取市議会議員選挙があるが、推薦候補者が決定していれば教えていただきたい。

▶ 代議員 No.17 末吉 純（米子運転所）

- 多客列車でも無人扱いにより、列車に遅延が発生する。和歌山支社では、運転士の判断により有人扱いができるが、米子支社でも取り扱えるよう会社へ要請されたい。また、次期ダイヤ改正でワンマン列車は拡大するのか。
- 伯備線復旧後も倒木が発生しているが、今後の工事予定や対策等が分かれば教えていただきたい。
- 西出雲駅降車場面でICカードをお持ちのお客様が多数おられ証明書を発行している。エリアの拡大を求める。
- ドア誤扱い防止支援装置は、2022年の全車両が整備するまで使用開始にならないが、整備済みの車両は使用開始しても、問題ないのではないか。なぜ、全車両整備完了後なのか教えていただきたい。



▶ 代議員 No.18 渡邊 直史（米子運転所）

- 米子駅南北一体化事業が展開されるが、運転所内で育児行路に乗務している組合員がいるが、育児をしながら働ける環境を整えていくためにも、米子駅ビルの中に託児所を設置して頂きたい。

▶ 代議員 No.39 坪倉 弘之（出雲駅連区）

- 出雲市駅は11名中9名がJNR社員で若手社員のうち1名は乗務員養成のため研修センターに入所している。他の駅に比べ若手社員が少なく職場に活気がない。若手社員の配属を増やすよう会社に要請していただきたい。
- 10月から駅における一般公衆電話の対応がなくなると聞いている。現段階での計画を教えてください。
- 新幹線管理本部の社員がトンネル内で300km/h近い風圧を体験する記事が出ていたが、本部の見解はどうか。



▶ 代議員 No.43 中島 圭祐（木次鉄道部）

- 木次線の「トロッコ列車」の運行は、今後どこまで計画ができていくのか。また、会社とどのように交渉していくのか教えていただきたい。
- 会社へ通勤するのに自家用車を使用しているが、毎月駐車料金を払っている。会社と交渉し支払わなくてもいいようにしてほしい。

▶ 代議員 No.48 齊藤 石見（浜田列車）

- 18春闘ではベアをはじめとする様々な成果を勝ち取っていただき感謝申し上げたい。災害が続き、収入確保が厳しいなか労使一体となり収入の確保に努め、来春の春闘でも成果をあげる取り組みを要請する。
- 猪などの動物と列車が衝突した場合に、乗務員が遺骸撤去をする場面もあるが、血液検査や厚めの手袋の支給等の対策や取扱いを明確にしていきたい。
- 三江線廃止まで、米子支社全体で安全輸送の確保に努めてきた。この頑張りに対して会社に一時金を要求してほしい。また、浜田列車分会として今後も振り返りを継続して行い後輩たちに言い伝えていく取り組みをするので本部・地本からの支援をお願いしたい。



▶ 《総括答弁》 地方本部 大川 達也（書記長）

「安全の確立」について、多くの代議員より発言を頂いた。地方本部として「働く者の安全の確保が出来なければ、鉄道の安全運行は成し得ない」との認識のもと、会社と議論を行っていく。新たに鉄道安全考動計画がスタートしたが、「異常時には現場の判断を最優先する」と明記されている。この価値観が会社全体に浸透しているのか検証を行っていく。「組織」について、昨年の各級機関大会以降、地方本部全体の役員の8割がJR入社世代となった。JR西労組の原点は、助け合いであり分会活動であるが、経験値不足による世話役活動の低下も実態として見受けられる。昨今の大規模災害が多数発生するなか、組織の強化とリンクした共済活動の拡大に取り組み、世話役活動を展開していく。「政治」について、組織内議員を身近に感じられる機会の増加や、政治に特化したユニオンスクールの設定を行い政治への関心や議員の活動内容が見える取り組みを展開していく。「地域活性化」の取り組みは、重要な運動の柱として取り組む。三江線廃止後の新交通体系の検証活動を行うとともに、人口減少に歯止めが利かない現状の中、山陰の鉄道をどう持続的に発展させていくのか、組合員の企画提案運動を要請する。最後に、第31回定期中央本部大会が米子地本管内で開催されることが決定している。この機会に、山陰の魅力を発信するとともに、山陰両県をはじめとする部外や会社に対してJR西労組の存在感を示していきたい。開催にあたり、地本・支部・分会が一体となり準備を行い、グループも巻き込んで本部大会を成功させる。最後に、本大会において代議員からいただいた様々な課題の解決に向けて全力で取り組むことをお誓い申し上げ、執行部を代表しての総括答弁とする。



《各支部定期大会日程》

- ◆鳥取支部 2018年10月20日（土）鳥取県労働会館 13:30～ ◆出雲支部 2018年10月27日（土）島根県労働会館 13:30～
- ◆米子支部 2018年9月29日（土）米子市公会堂 13:30～ ◆石見支部 2018年10月20日（土）ジョイプラザ 13:30～